

ホンゴウソウ *Sciaphila nana* Blume

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。全国的に希少とされる腐生植物であるが、愛知県では最近多くの新産地が発見された。

【形態】

多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、直立してまばらに分枝し、高さ 3～13cm になる。葉は鱗片状で長さ約 1.5mm、茎と共に紫褐色である。花期は 7～10 月、茎や枝の先端に長さ 0.5～2cm の総状花序をつけ、4～15 個の花をつける。花は単性で、花序の下部は雌花、上部は雄花となる。雄花は直径約 2mm、花被は 6 裂し、うち 3 個は大きく、他の 3 個は小さく先端に球形の付属体をつける。果実は多数の心皮が集まり、球形で直径約 2mm の集合果となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：8 鳳来北東部（瀧崎吉伸 27077, 2010-9-4）、18 田原西部（永田芳男 s.n., 2003-8-5）。西：20 足助（芹沢 92808, 2017-8-9）、21 下山（芹沢 90681, 2015-9-25）、24 豊田東部（木村修司 s.n., 2002-7-27）、25 豊田北西部（木村修司 s.n., 2002-8-1）、28 額田（芹沢 87964, 2012-9-26）、29 岡崎北部（芹沢 90678, 2015-9-25）、30 岡崎南部（小林・守谷 s.n., 2013-8-27）。尾：37a 瀬戸（飯尾俊介 430, 2017-8-15）、50 名古屋北部（西部めぐみ s.n., 2019-9-4, NBC）。12 新城（庭野、鳥居喜一、1941-9-14, HNSM）、46b 大口（井波一雄 s.n., 1942-6-28, CBM 182080）、53 一宮東部（大赤見八幡神社、戸松滋正 s.n., 1934-8-19）で採集された標本もあり、このうち一宮東部の自生地は国指定天然記念物であった。

【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球にややまれに生育する。

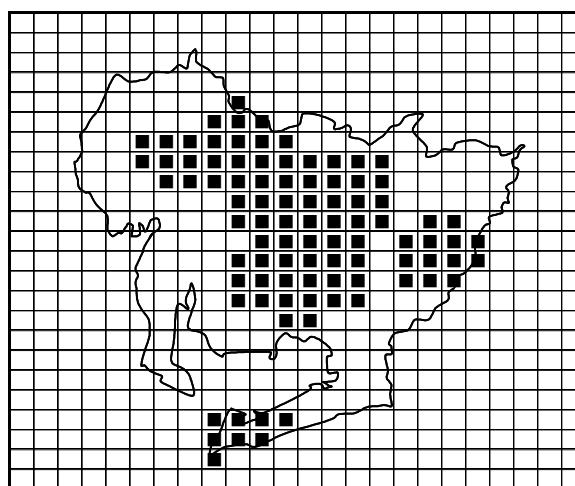
【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

暗い林内の落葉の間に生育する。

要配慮地区図



	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／増加の要因】

レッドデータブックあいち 2001 植物編では「絶滅」とした植物である。一宮東部では、伊勢湾台風により林が破壊され、絶滅したと言われる。2009 年版の時点では自生地が 4 カ所発見されたが、どの場所も個体数は少なく、特に豊田東部は 1 株確認されただけであった。しかし、その後自生地が続々発見され、2015 年の第 3 次レッドリストでは準絶滅危惧になり、今回のレッドデータブックではリスト外と判定されるに至った。里山の森林化によって、近年急激に増加している植物と思われる。ただし、新産地の多くが開発事業に伴う環境影響評価のための調査で発見されていることから明らかなように、開発圧力も大きい。

【保全上の留意点】

里山の森林化は、とても止めることができない趨勢である。自然環境の全体的保全は必要であるが、本種の場合個々の自生地をどうしても保全しろと言える状況ではなくなってしまった。

【特記事項】

和名は、三重県桶町本郷で最初に発見されたからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.391, 平草本 I p.19, 平新版 1 p.152, 環境省 p.546, SOS 旧版 p.91.